

# デニムも人生も 時が価値を生む

デニムも人生も、時を経るほど味わいを増す。

そんなメッセージを込めた短編映画を、カジュアル衣料製造の青木被服（井原市西江原町）が製作している。東京でモデルとして働く姉と、倉敷市でデニム職人の見習いをする弟の久々の再会を描いたヒューマンドラマ。倉敷市美観地区で撮影し、今秋に動画投稿サイト・ユーチューブなどで公開する。

主人公の藍香が、弟の隼から届い

倉敷アイビースクエアで撮影に臨む町本さん（右）。  
衣装やデニム製のバラ、バッグは青木被服が手がける

## 井原・青木被服 倉敷・美観地区で映画撮影

た手紙とデニム製の一輪のバラを携え、倉敷を訪れる。隼はジーンズや雑貨に使われ、経年変化による色落ちなどで味わいが生まれるデニム独特の魅力にひかれていた。藍香は職人を志す弟の生気に満ちた姿に触れ、単調な日々の繰り返しで輝きを失ったかのように思えた自身の人生を見つめ直す。

題名は「BLUE ROSE」（ブルーローズ）。藍香役に俳優の町本絵里さん（41）＝福山市出身＝を起用し、他の配役を同社社員が務める。脚本と監督は専務の青木俊樹さん（41）が担当。バラといった小道具や出演者の衣装は自社ブランド品を使う。

7月に美観地区の倉敷川沿いや大原美術館、複合施設「倉敷アイビースクエア」などで撮影を行った。現在は映像を編集中で15分程度にまとめる。早ければ10月の完成を目指す。

映画製作は岡山特産デニムの奥深さを伝えようと企画した。地域や行政に観光PR用などとして提供する考え。青木さんは「時間がたつ、古くなることをネガティブに捉えがちだが、デニムや人生はそれが価値を生むと思う。藍香と隼には、ファッションに携わる今と若い頃の自分の心境を反映させた」と話す。

（鈴木省吾）

（C）山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。